

No.156

# 公民館だより

平成28年3月  
宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 在職十年を振り返る(七)

由良地区公民館長 枝川隆 亮

◎平成二十五(二〇一三)年

「生涯学習講座」は元由良小学校校長 松本師正先生に「由良の船絵馬の見方」と題し文化講演会を実施しています。

計十六年間で由良小学校に勤務された「在職中の思い出」にも触れていただきました。

「在職中の思い出」では、当時の児童の作文の紹介、由良ヶ嶽登山を開始したこと、お金や命の大切さを知ったこと、児童は破れた靴を履いていた子がいたこと、授業では杉鉄砲の製作、毛糸をほどき手袋を作ったことなど当時の地区民の日常生活を詳しく説明され、懐かしく拝聴

させていただきました。

「由良の船絵馬の見方」ではプロジェクターを使用し、船絵馬を数多く紹介されました。

北前船が航海の出発に際し無事を祈念し奉納した船絵馬、「高王丸」「寶壽丸」の紹介、遭難しながら一命を留めた場合に途中で寄港し絵馬を奉納した「寶求丸」「飛龍丸」の解説、特に「飛龍丸」では遭難の姿が描かれており、帆は降ろされて空中に御幣が舞っており船員全員が合掌して海が収まることを祈っている状況や、波が怒涛のごとく打ち寄せ、船が木の葉のように揺れており、当時の航海の厳しさ

が見事に描かれている最高傑作の一枚であると解説されています。

帆と船の関係、帆の大きさに触れられ、八百石なら帆が二十三反、千石船なら二十四反になる。遠方から船が解るように帆印が附けられていることを解説されました。

この年の夏、日本列島を次々襲った記録的な猛暑、突然のゲリラ豪雨、そして住宅や車両などを空に巻き上げた竜巻、勢力の強い台風もつぎつぎと発生、日本列島に接近し各地に大被害をもたらしています。

非常に激しい風雨は、私たちの貴重な日本台地を容赦なく削り河川や道路に氾濫しています。

気象庁は『平成二十五年は異常天候・異常気象とよんで良い』と発表していました。

そんな異常気象は「生物」の世界にも大きな影響を与え、スズメバチやザリガニが大発生し生態系に深刻な影響を及ぼして

います。記録的な豪雨や少雨、猛暑、相次ぐ竜巻の発生などはすべて地球温暖化が原因とされています。七月には山口・島根で記録的な豪雨で土砂崩れや家屋浸水で二人死亡、八月には高知県四万十市で国内史上最高気温40.9度を観測、異常だらけの一年でした。

富士山が世界文化遺産登録や二〇二〇年東京五輪・パラリンピックが決定という嬉しい知らせもありました。伊勢神宮で遷御の儀の儀式も行われました。

いずれにしても、エルニーニョやラニーニャ現象は毎年繰り返して発生し、全世界中に被害をもたらしています。

私たちの生活は、これらの現象に影響を受けざる事になり日々対応していく事になるでしょう。

私たちは、少しでもエコに努めCO2の発生の減少に努力しなければなりません。

(以下次号)

# 行事報告

主事 千坂 幸雄

## ◎由良地区健康広場ウォーキング

### ○十月ウォーキング

十月十八日(日) コウノトリの郷公園行を開催 男子十名、女子十八名 計二十八名の参加  
天候晴れ、午前九時四十分には丹後由良駅に集合して六十五歳以上は片道二百円でコウノトリの郷公園駅下車、三十分歩いてコウノトリの郷公園に到着しました。

レストランでコウノトリが育んだ米のおにぎりを食べた後見学、この日はコウノトリが自然に返されるようになってから十年になるのを記念して、普段は見学できない飼育ゾーンを見学することができました。

午後一時三十分、コウノトリの郷公園を出発、帰りも約三十分歩くことができました。参加された方との交流ができました。ウォーキングの勉強ができました。良い運動になった一日でした。

歩行距離 八、二キロメートル

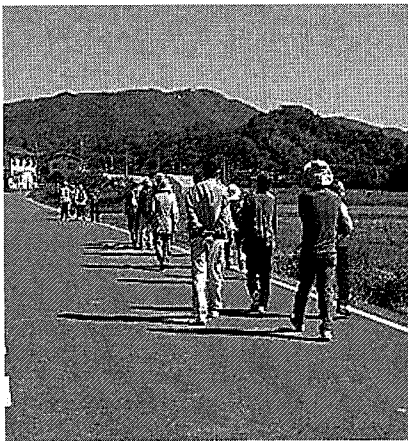
### ○十一月ウォーキング

十一月十五日(日)地区内ウォーキングを開催  
「森が鼻、下石浦コース」約五キロメートルをウォーキングしました。

男子八名、女子九名 計十七名の参加 天候、雨時々曇り

ウォーキング中ほとんど雨の状態でしたが、皆さん元気に歩きました。

途中では、みかんや柿が実り、美しい花が多く咲いていました。



### ○十二月ウォーキング

十二月六日(日)地区内ウォーキングを開催  
「山小屋コース」約五キロメートルウォーキングしました。

男子六名、女子八名 計十四名の参加 天候、曇り時々晴れ

由良ヶ岳登山口(山小屋)まで歩き、みかん畑を通って脇地区に入り、由良の里センターに戻ってきました。

いろいろなみかんの種類に感じたり、川で魚を見ついたりしながら二十分ほど歩いていると身体がホクホク温かくなってきました。普段は暖房器具で暖をとっていますが、今日は歩いて暖をとることができ、健康に過ごすことができました。

### ○一月ウォーキング

一月十日(日)由良地区四社詣りウォーキングを開催  
約六キロメートル歩きました。

男子十名、女子十四名 計二十四名の参加 天候、曇り

浜野路にある玉司稻荷神社や荒神社、港にある照国稻荷大明神、脇地区の奈具神社、最

後に由良神社に参拝しました。ウォーキングの後でニュースポーツがあるため宮津からスポーツ推進委員の方の参加がありました。



## ◎グラウンドゴルフ大会(団体戦)

十月二十五日(日)午後二時から午後四時

はまの子グラウンド 選手：男子十四名 女子十一名 役員：三名

天候、晴れ時々曇り、風が強く、ゴールポストがよく倒れる寒い日になりました。そんな中、五チーム二十五名の選手が元気に楽しくグラウンドゴルフを行

いました。結果は、次のとおりです。(敬称略)

優勝：宮本ロイヤルズ(林 山)

本 柘田 上羽 熊田)

準優勝：由良松寿会(熊田 三)

嶋 野村 中西 才本)

第三位：ヤングチーム(瀬田)

中西 藤本 中西 濱野)

個人最優秀賞

男子：熊田 良雄

女子：濱野 尚子

〔課題〕

今回は、オリーブ祭や農家組合の餅つきなどと行事が重なりました。

◎由良地区文化祭

十一月一日(日)午前九時から午後三時

由良地区公民館に於いて

来場者数：約四百名

十月二十五日(日)に公民館

全役員で会場準備を行いました。

約一時間半

十月三十一日(土)午後二時

から展示物の受付を行いました。

この日は、結・友・遊クラブの方が、うどん・ばら寿司の準備を、NPO法人由良の戸千軒

長者の館の方が、コーヒー販売の準備をしておられました。

十一月一日(日)いよいよ文化祭当日、天候は曇り、午前八時から文化部でテント張り

と古本の販売準備を行いました。

バザーのテントや台はそれぞれの

出店団体が準備をしました。

古本販売は、由良地区公民館

所蔵の本が、誰にも読まれること

となくしまっている状況にあり、

少しでも地区民の皆様にご覧

んでいただきたく、一冊十円で



販売しました。二百十三冊皆様にお持ち帰りいただきました。(前には、年に何冊か新書を購入し、本の貸し出しをしま

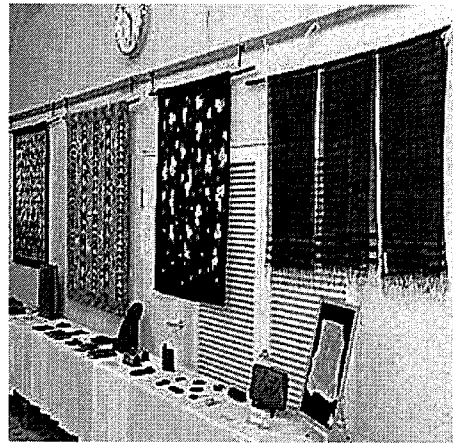
した。)

午前十時からうどん・バラ寿司の販売が始まり、展示品を鑑

賞する人も増えてきました。

バザーやコーヒーショップも盛況

でした。



でした。小学校の校長先生や教

頭先生も来場され、駐在さんも

鑑賞されていました。

皆様の協力で例年どおりの賑

やかな文化祭になりました。

お礼申し上げます。

課題は出展数の減少傾向で

す。来年も賑やかな文化祭にな

りますよう、多くの出展をお待

ちしています。

〔今年度の出展品〕

・幼稚園、小学校、中学校の作

品

・習字クラブ、習字教室の作品

・由良カメラクラブ、井上さんの写真

・レザークラフト、パッチワ

ーク、藍染めシヨール

・オリーブ絵画

・生け花

・地区公民館巡回パネル展

計百七十八点



◎子供料理教室(餅つき)

十二月十三日(日)午前十時

から午後一時

由良地区公民館に於いて

〔参加者〕

小学生と幼稚園児二十八名

講師：宮津市食生活改善推進委

員五名

子供会役員、保護者十一名

子供料理教室は十一回を迎

え、今年度も昨年度同様に食改の方の指導を受け、由良子供会連絡協議会との共催で平成二十七年「子どものびのび体験活動」事業として「子供料理教室」を開催、今年度は初めて「餅つき」に挑戦しました。

子供たちの集まりを心配していましたが、子供会役員の皆様の協力で、小学生二十五名、幼稚園児三名参加することができました。

始める前に館長と子供会連絡協議会会長のあいさつ、次に、食改の方の紹介と「手洗い」等、衛生面の指導をしてもらいました。

参加した子供達全員が白に入っている餅を杵でつく経験をしました。

丸めるのも食改の方に餅取りをしてもらっていましたが、自分も餅取りをしたいと言う子が何人かいて、餅取りの指導もしてもらいました。

できた餅はぜんざいにして、大根サラダ、みかん、お茶を用意していただきました。お替わりもしておなか一杯食べることができました。

テーブルごとに写真撮影をした後、五・六年生に感想文を書いてもらいました。

館長の閉会あいさつの後、四十五分ほど卓球などをして解散しました。餅を二個持ち帰りました。

来年度からも「餅つき」を続けていきたいと思えます。「餅つき」の年と「クリスマスケーキ作り」の年にすればいいのではないかと思えます。

◎新春囲碁大会

一月九日(土) 午前九時から午後三時 場所：由良の戸(安寿足湯) 千軒長者の館 九名参加

由良囲碁同好会共催 館長あいさつの後、由良囲碁同好会長のルール説明を受けて開始しました。

できるだけ段・級に近い五人の人と対戦し、勝率で順位を決める。三名が四勝一敗になり、順位決定戦を行いました。結果は次のとおりです。

- 敬称略
- 優 勝：飯澤 登志朗
- 準優勝：今西 秀夫

第三位：熊田 良雄

今年成人式を迎える人たちが小学校の頃に囲碁を習っていたが、現在は参加できなくなっています。毎年決まった方の参加になっていきます。囲碁をする人のすそ野が広がればと思います。

◎巡回ニュースポーツ教室

ユニカール一回目

一月十日(日) 午前十時三十分から午前十一時三十分 場所：はまの子体育館 三十一名参加 ウォーキングの後、体育館に集合し、しばらく休憩しました。準備の方はスポーツ推進委員の方にお願いしていました。

館長のあいさつとスポーツ推進委員のルール説明後、経験者のグループと初心者グループに分かれて競技を開始しました。

初心者のグループはスポーツ推進委員が説明をしながら競技を進めました。経験者のグループはスポーツ推進委員についてもらいながら白熱したゲームを展開しました。

チームで作戦を立て成功した時の楽しさを味わうことのできるスポーツです。体力はいりません。見ているだけでも楽しいです。是非、一度経験してみてください。

二回目は二月十三日(土)を予定しています。

◎卓球教室

一月から三月まで土曜日に由良地区公民館で八回実施します。

一回目は石浦の女性の方が二名参加されました。一名の方は経験のある方で、もう一名の方は初心者でした。主事も一緒になってピン球を打ち合いました。

二回目は脇の方一名と浜野路の方一名の参加でした。どちらの方も女性で少し経験のある方でした。少し汗ばむくらいの運動は大変心地よいと言っておられました。

三回目は脇の女性一名、宮本の男性一名、浜野路の女性三名の参加でした。主事も入れて六名になり賑やかに行うことができました。

# 平成二十七年度を終えるにあたって

宮津市立栗田小学校 教頭 梅本敏彦

日頃は本校の学校教育にご理解、ご支援いただきましてありがとうございます。栗田小学校の一年間がまもなく終わろうとしています。栗田小学校が、日頃から地域の皆様様に様々な点でお世話になってきたことにつきまして、ましては昨年のこの時期の公民館だよりに書かせていただきましたので、今回は栗田小学校が保護者の方にお世話になりながら、多くの行事に取り組んでいくことを紹介させていただこうと思います。

まず五月には、春の運動会が開催され、徒競走や障害物競走、児童会種目のチーム対抗



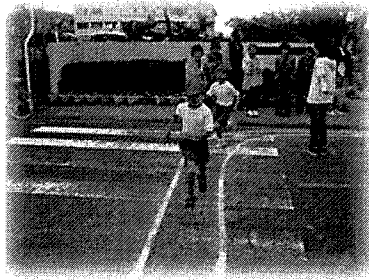
「ムカデ二人三脚リレー」、団体演技の低学年「インベーダー☆あらわる」、高学年「栗小ソーラン、凜」等多くの取組を行いました。保護者の皆様には、前日準備から当日の各種目の用具の出し入れ等をお世話になり、子どもさんの競技・演技をゆつくりと観ていただく間もなく慌ただしくご協力いただきました。

七月には栗田の海岸を会場に遠泳大会が開催されました。小寺から上司まで泳力検定で百メートルを泳げた三年生以上の子ども達が参加します。こ



こでも一人に必ず一人の保護者の方が監視役で付いていただきます。また、一緒に近くで側泳をしていただく方、船を出していただく方もあります。このようなか、お陰様で無事に終えることができ、泳ぎ切った子ども達は満足げな表情でした。

十月はマラソン大会が行われました。低学年は一・四km、中学年は二・四km、高学年は四km、栗田地区の街中を走ります。朝マラソンや体育の授業で練習を重ね、記録を縮めようと当日まで頑張っていました。ここでも、二十箇所ほどの地点で保護者の方に安全指導と共に、励ましの声をかけていただきました。



一月はスキー教室がスイス村

スキー場を会場に行われました。五、六年の四十名ほどの子ども達が参加しますが、学校の教職員だけでなく、指導ができません。ここの地域の方を含め、多くの保護者の方に参加していただき指導をお世話になりました。今年度も十名程の方に来ていただき、丁寧な指導で子ども達の上達が早かったです。



このように一年間を振り返ってみても、多くの保護者の方にお世話にならないと、学校だけではとてもやっていけないことがわかります。今後とも保護者の方はおちろんです。地域の方にもお世話になることがあると思いますので、ご協力をお願いいたします。

# 由良の将来に向けて

由良自治連合会 会長 升田 榮 二

由良地区内に限らず宮津市や京都府全体、全国的問題として毎日のように取りあげられています。少子高齢化を今後の問題として、この由良地区として何が出来るのか、一緒に考えながら取り組んで行きたいと考えます。

私達の年代がこの由良の地に住み、色々とかかわりを持ち、早くも半世紀以上を過ぎ、折り返すまでの間に、時代が日々変革・脱皮を繰り返される中、つい昔の生活や環境や人々との関りが懐かしく思い起こされます。

昭和二十五年に宮津市人口のピークで三万六千二百二十五人の時には、由良の人口は二千三百九十四人を数えていました。近年の平成二十六年年度の由良の人口も千六十九人と、

五十年以上経ちました現在では、半数以下の人口となつていきます。十年先・二十年先そして五十年先では、由良地区内人口も、さらに単純計算で半数以下



の400人を切るといった統計が出ています。宮津市においても現在の一万八千四百人から、五十年先では七千人になる統計

をふまえ、人口減少の歯止めにと宮津市は、平成二十七年から平成三十一年の五年間を目標に「宮津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンと総合戦略」の概要を掲げての取り組みを始めています。

そうしたことを踏まえて由良地区として、あらゆることの指導を受け、見直しや考え方の軌道修正を一緒にやり、手を付けて行かなければならない時だと思えます。

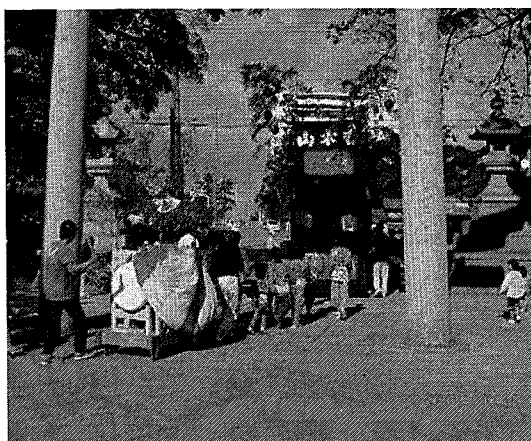
由良自治連合会・由良をよくする地域会議では、ますます人口減少が加速をする状況を見て、由良地区の今後を「豊かで住みよい町づくり」をモットーに、当面は十年先を見据えた由良地区をどのように進めていくか、皆様に思いを共有していただくために、里力再生計画「由良2023年ビジョン」の冊子を、平成二十七年四月に、由良地区に全戸配布させていたできました。

再度目標とする冊子内容の概

要に付きまして申し述べさせていただきます。

## 一、「福祉・教育・子育てに 取り組む地域」

少子高齢化が進む中、高齢者に住みよい町づくり、子育てに安心して育める町に思いをもち、少しずつ前へ進めていける活動をしていく事としています。



高齢者が安心・安全に住めるには、どのような事へのサービスクがいいのか、体制の充実を進めていくか、関係機関と共に連

携を図って行きます。

地域の声を聞き、高齢者や子育て世代・働く皆さんが「住んでよかった、由良に来て良かった」という思いを持てる由良にしたいものです。

## 二、「観光・産業・開発に取り組む地域」

以前から続く由良の観光・産業体制を生かしていく事と、生産年齢人口が減少していく中、新しく始めようとする産業・地域特産の取組体制を、由良として、皆さんがどのように考え、門戸を開けて受け入れて行くかに、左右されて行くものと思っ

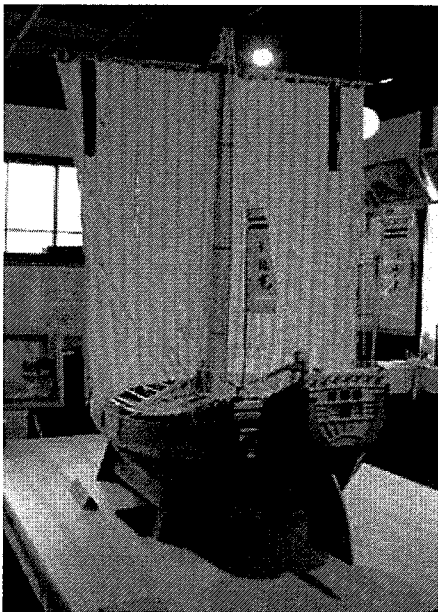
ています。

由良地区内アンケートの声にもありました休耕地・放棄地も、今後取り組んで次世代へ活用のバトンタッチを終えておかなければ、手つかずの面積が増え有害鳥獣の格好の生息地になるものと思われます。

## 三、「歴史・文化・芸能・スポーツに取り組む地域」

由良地域に残る貴重な歴史文化を大切に後世に伝えていく事、多方面からも立ち寄っていただき、知っていただくことに力を注げればと思います。

由良に伝わる民謡・踊り芸能



も、少し薄れがちとなって来て

いる現在、絶やすことなく、次の世代を担う人達に伝えて頂きたく考えます。

スポーツ関係におきましても、以前からのスポーツ行事やグループで取り組んでいたことも、人口減少の影響が出てきています。しかし、ニュースポーツも入って来ている中、今後は

高齢者が増えることもあり、健康維持を考えた取組にチャレンジして健康増進を図っていかねばと思います。

以上の様に先行きが明るく希望が持てるように、由良2023年ビジョン重点方針概

要、宮津市まち・ひと・しごと

創生人口ビジョンと総合戦略を目標として、計画したことが絵空事にならぬように、地区民からの意見・要望に沿い、耳を傾け実現するように頑張っていく、次世代の人達へ自信を持ってバトンを渡せる由良地区になるよう進めていきます。

計画の実現に向け皆様と一緒に頑張って頑張ります。ご協力をお願いいたします。



# 新成人のことば

## 平成二十七年度 成人を迎えられた人から

### 成人になっての誓い

小楠 健二郎

私は一月十日に成人式という大人の仲間入りになる式に参加させていただきました。

この度の式に参加して、年を重ねるにつれて大人と社会人と男としての階段をゆっくり一段

ずつ昇って行くのだと感じたり、社会人としての責任感が必要であるし、社会人である以上

法律違反など断じてやってはならぬ事だと思ひ、これからたくさん

さんの世間の事を知り、さまざまな知識をつけて役立てたいと思ひました。

今世界ではテロ組織による世界各地での襲撃があり、無差別で何も罪のない人々が命を落とし、家族もいて恋人もいる人々は沢山おられ、遺族の方々は悲

しみの涙や心の叫びなどを訴えながら生きていくのだと思ひました。だからこそ、何もかも兵器や武器を使って止めるのは逆

に無理だと思う。平和を目指すのであれば武器を使わず言葉と

言葉で話合ったほうがさまざま

な問題も解決できるのではない

かと思ひました。

私の将来の夢は人の役に立つ

仕事をし、それを生きがいにする

私がかここまで成長することができたのは家族のおかげで沢山の愛をもらい生きてきたからです。苦勞して愛情いっぱい自分

分を生み育ててくれた母には特に感謝しています。

私が懸命に働き、今までも

らったものを次は私が恩を返して

いくつもりで頑張りたいと思ひ

ました。

平成二十八年一月、この度私

たちは無事、成人式を迎えることが

### 成人式を迎えて

竹田 真子

とができました。久しぶりに家族や友人に会う嬉しさや、成人

となった緊張感で長時間の帰省

中、常に胸がいっぱいでした。成人式を迎えて改めて思ったことが三つあります。

変な思いをしながらも、社会人として一生懸命働く友人。夢を叶えるべく、目を輝かせながら学ぶことの楽しさを語る友人。少し離れていただけに、友人たちがひとまわりもふたまわりも大きく見えました。確実に成長している友人たちを尊敬するとともに、自分も負けてはいられないという思いを感じることもできました。

二つ目に、私は自分でもあきれるほど地元が好きであると再確認したことです。私は現在、由良から遠く離れた大学に通い、日々勉強に励んでいます。何かがあってもすぐ帰れる距離ではありません。それゆえ、帰省するたびに由良の安心感や良さを感じます。自然が豊かで、会う人々が笑顔で応えてくれます。幼い頃は、これが当たり前だと思ひましたが、素晴らしいことなのだと思ひ改めて実感しています。

最後に、私を大切に思ひ、慈



しみ育ててくれた両親や二人の兄、祖父母たちに心から感謝をしています。今、こうして成人を迎えられたのも家族の支え、安心して帰ってこれる地元、心を許せる友人たちがいたからです。私は、自分の人生を自分の思うように歩んでいけることに幸せを感じ、無駄に過ごさず有益な人生を過ごすために、今をしつかりと見つめ、努力したいと今まで以上に感じるようになりました。

一期一会を大切に、私にしてくれた優しさを今度はお返しができるような大きな人間になりたいと思います。

## 成人式を迎えて

中西 奏 実

平成二十八年一月十日、私達は無事に成人式を迎えることができました。会場である宮津会館に行くと、懐かしい友人達に会うことができました。みんなの久しぶりの笑顔にとっても癒さ

れ、学生の時の思い出話はとも盛り上がりました。また、みんなそれぞれ夢に向かって頑張っている姿は、かっこ良くて自分も頑張ろうと思え、背中を押してくれそうです。成人式で家族や友人と撮った写真は宝物です。

ここまで成長できたのも、多くの人たちのおかげです。特に、家族のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。私は今、地元を離れ、一人暮らしをしています。実家暮らしのときには親が何でもしてくれることに当たり前だと感じていました。しかし、今は家事もすべて自分でしなければならなくて、親のありがたさをととても感じます。また、地域の方々にも支えられてきました。小さい頃から私達を温かく見守ってくださり、道で会うといつも声をかけてくださり、本当に地域の方々の温かさを感じます。

二十歳になり、これからは自

分の行動に責任を持たなければなりません。また、辛いことや苦しいこと、壁にぶつかることがあると思います。しかし、家族、友人、地域の方々など、私達の周りには支えてくださる方々が多くいます。その方々にいつか恩返しができるよう、また胸を張って地元へ帰れるように、日々努力していきたいと思っています。

山や海があり、自然豊かな由良、これからも変わらない綺麗な景色が見たいです。私にとって由良は大切な大切なふるさとです。『自然豊かな由良』『大切な人達に会える由良』そんな由良が私は大好きです。

## 成人式を迎えて

濱 本 も も

平成二十八年一月十日、私達は成人式を迎えることができました。久しぶりに小中高の懐かしい顔ぶれを見ることができて、それだけで胸がいっぱいに

なりました。

幼少期からずっと一緒にいた由良の皆や中学校・高校の友達、昔から変わっていないように、でも、自分の将来に向かって着々と歩みを続けています。私自身、やりたいことに向かって毎日が苦勞の日々で何度もくじけそうになっています。しかし、そこでくじけずに日々を過ごせているのも、ずっと私を見守り、支え、育ててくれた両親のおかげだと感じています。本当にいつも、いつもありがとうございます。

成人したということは、それ相応の行動をとっていかなければ、社会的に通用しなくなってしまうと思います。しかし、社会の一員だと言われるのも、実感がわかないというのが正直なところですが……。それでも、自分なりに責任感を持って日々を送っていかうと思います。また、自身が通う学校では、春から半年以上の実習が始まるため、そこで様々な出会いを大切にしてい

き、多方面からの教えを学び、人間的にも成長していきたいです。

私達がさらに年を重ね、社会の一員だと胸を張って言えるころには、もう一度地元の皆で集まって成長した姿を見たいと考えています。そして、そのような日が来るのを楽しみにしています。

## 成人になって

山田 栞奈

平成二十八年一月十日、無事に成人式を迎えることができました。今年の冬は例年にならない暖かさで、雪もない中での成人式でした。

成人を迎え、これといった変化、実感はまだありません。ですが、成人になれば、自分の行動に対する責任など、全て負わなければならなくなります。なので、社会の一員であることを自覚して行動していこうと思います。

最近、世界中で起きているテロや難民の問題、日本でも起きている事件など、暗いニュースをよく目にします。そんな中で、こうして平穏な日々を送っていることに感謝したいです。また、自分のワガママを嫌な顔をせずに聞いてくれ、大切にしてくれた家族、どんな時でも一緒にいてくれ、さまざまな話をして笑い合った友人、その他、今まで沢山のサポートをしていただいた方々には本当に感謝しています。いつかこの思いを返せるように、変化を起こせるようにしていきたいです。



# 子供料理教室に参加して

四年 室 澤 亜 紗

十二月十三日(日)、今日、

私は由良の里センターに餅つきに行きました。九時三十分ごろにお姉ちゃんと一緒に行きました。そして、怜奈ちゃんと一緒に行ききました。途中で怜奈ちゃんが「あつ、エプロン忘れた。」と言いました。どんどん進んでいき着きました。何分かしてから車が来て、怜奈ちゃんのお父さんがエプロンを渡してくれました。

最初に館長から注意がありました。次にA班とB班に分かれました。そして、餅つきをしました。初めてだったので難しかったです。丸めるのは簡単でした。そして、昼ご飯を食べました。サラダがおいしくて二杯も食べました。今日は長いかなと思っ



たけど短かったので良かったです。楽しかったし、おいしかったです。

五年 上 羽 千 晴

十二月十三日に里センターで

子供料理教室をしました。

餅をつくののは、重くてやりにくかったです。ぜんざいが甘く

とてもおいしかったです。小豆が歯に挟まって取りにくかったです。

毎年ケーキ作りだったので、たまには餅つきもいいと思います。又、餅つきをしたいです。そして、又、ぜんざいを食べたと思います。



五年 川 崎 紳太郎

十二月十三日に餅つき大会がありました。杵と臼でつくのは初めてではなかったけど、ドキドキしました。だけど、わりとうまくつけたし、丸めるのも綺麗にできたと思うので良かったです。

とても楽しかったので、また来年もやりたいです。

五年 中 西 歩 実

十二月十三日(日)に里センターで子供料理教室がありました。今年はお餅つきをしました。まず、A班の人が臼と杵で餅をつきました。次に餅を私たちB班が丸めました。次は交代して私たちが餅をつきました。杵は重かったです。

最後にぜんざいを食べました。あまり餅は好きじゃないけど、おいしかったです。



五年 升 田 康 太

餅つきの感想は、みんなが楽しく作れて良かったです。餅をつくとき杵が重かったけどまあ面白かったです。

ぜんざいを食べた時には「ウメー」というほどおいしかったです。

みんなで楽しくできたので良かったです。

五年 山 田 遥 加

十二月十三日(日)に里センターで子供料理教室がありました。A班とB班に分かれて餅をついたり、こねたりしました。私はB班で、まず、こねました。ほのかに温かかったです。次につきました。杵は少し重かったです。つくつくと「ペチャ」という音がしました。食べると柔らかくモチモチしておいしかったです。甘かったです。また、自分でついた餅を食べたいと思ったし、良い経験になりました。



六年 大 森 葉々美

十二月十三日の里センターであった子供料理教室で、今年も餅つき大会で去年の様にクリスマスケーキ作りじゃなかったし、餅をつかなければならなかったので少し嫌だったけど、いざやってみると、丸めるのも、つくのも楽しかったし、ぜんざいも甘くておいしかったので、最後の最後まで楽しかったです。

六年 亀 井 梨 帆

十二月十三日に子供料理教室がありました。去年まではクリスマスケーキ作りだったけど、今年も餅つきでした。

私は餅をこねるのは初めてではなかったけど、つくのは初めてだったので思ったよりも重かったし、とてもやりにくかったです。

でも、うまくつくことが出来て良かったです。

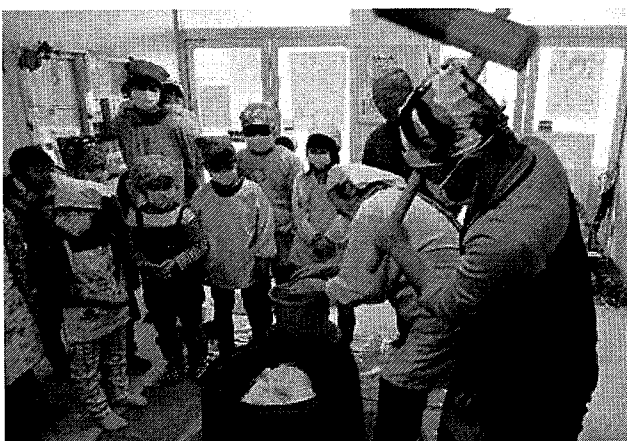
ぜんざいが出来あがって甘

かったけどおいしかったです。それにサラダもみかんもとてもおいしかったです。また、やりたいです。

六年 田 村 怜 奈

十二月十三日に料理教室が里センターでありました。去年はみんなで作るクリスマスケーキを作り、今年も餅つきをしました。

餅つきは幼稚園以来だったので少し楽しみでした。ぜんざい



を食べると聞いた時、少し嫌だなと思いました。けれど、おばあちゃん（先生）たちがおいしくしてくれたので良かったです。

少し甘かったけど、みんなですいたお餅はおいしかったので良かったし、餅つきができたし楽しかったです。



六年 中井一成

餅つきは、杵でつくのがすごく難しく、重かったけどすごくうまく出来たから良かったです。



餅を丸めるのは手にくっついかりしたけど、うまく出来たので良かったです。昼食はぜんざいでした。自分たちがついたお餅は柔らかくておいしかったです。食べる競争をしたりして楽しく出来たのでめちゃうれしかったです、いい思い出になったので良かったです。

六年 中垣幹郎

餅つきをしての感想は、僕は餅つきをしたことがなくて、初

めてだったので、杵がとても重く感じました。丸めるのは、結構うまく出来たので良かったです。その後に食べたぜんざいはとてもおいしかったです。三杯くらい食べれたし良かったです。全体的にすごくおいしかったです。僕は今年で最後だけど、いい餅つきになって良かったです。



六年 中西真之  
餅つきは、杵が重かったけどまあまあうまく出来たので良かったし、楽しかったです。丸めるのも、まあまあうまく出来たので良かったです。ぜんざいは食べる競争みたいなのをしたので楽しかったです。

今日は、全体的に楽しかったですし、うまく出来たので良かったです。また、何かやりたいです。

六年 室澤依亜

十二月十三日(日)里センターで子供料理教室がありました。

今年は去年と違って餅つきでした。私は経験したことがあるけど、久しぶりでした。正直、餅は好きだけど、ぜんざいやおしるこは嫌いなので、あまり食べたくないと思っていました。餅についていると重いので大変でした。食べるときは甘かったので頑張って食べました。

おいしかったです。餅を又つきたいです。

# 一昔前の話

## 中西六右衛門

私の父、九代六右衛門が逝去したのは昭和四十九年（一九七四年）、四十二年前になる。

二十歳の徴兵の時は幹部候補生になり、一年後陸軍砲兵少尉で任官するはずが、途中任官前に負傷し、上官が将来のことを考えて兵役免除にしてくれた。除隊したそうだ。その為自分だけが生き残り戦友の殆どは戦死したと、申し訳なく思いつつ逝つたと聞く。

二十八歳で浜野路区長に、三十二歳で由良村村長、村長時に敗戦になり、戦後処理中に当時兼務の翼賛壮年団長の関係で戦時追放になり、一切の公職から去らねばならない時代を生きてきた。

戦中の貴金属供出では立場上先頭に立ち、懐中時計から門の

鉄柵まで全て供出し丸裸になり、戦後片山内閣時の農地解放にて、殆どの田畑を開放し何十分の一だけの田畑が残り、酒屋の酒は戦時統制から丸公（政府決定価格）になり、厳しい取り締まりの中での酒造りと戦後の極端なインフレ、銀行貯金封鎖、新田切替、極端な食糧難等々とは大変な時代を日本人全体の一員として生きて家業を守り、商売一途に生きてきた。

その中で一般社会は戦後民主政治による一般選挙、学制改革、全ての物資統制から一つ一つ解放され、自由経済へと変遷し、現在へと進んだわけであり、その中には先人の大変な苦勞があったと思う。そして今の繁栄と自由な日本が在る訳である。

当地由良の行政面でも大きな変化の連続であったと思う。公

選による村長、村会議員、各種団体役員等々、又、町村合併による由良村の進路選択、舞鶴派と宮津派の強烈な葛藤、最後村長の一票による宮津への合併にて生じた地区内の大きな溝、行政のみ宮津で経済、高校教育、宗教、文化を舞鶴に残してと云う変則移行等々、由良は舞鶴、宮津との間で時に揺れ動いている様にさえ思える。

一方では宮津とは奈具海岸にて切り離された由良の独自生活化は模索されてきたと聞く。昭和四十年代に計画されたと聞いた由良小学校の由良駅裏、由良岳山麓への移転、小学校跡地の再開発、文化経済の中心として集会所（中央公民館的なのか）、商店の誘致、バザールの創出計画。次いで由良岳天王山への郵政の簡易保養センターの誘致、合わせて青少年の家研修センターの誘致が計画されたそうだが、取付け道路への諸問

題と圃場整備が計画の半分で終わったと同様に地権者等の反対、その他駄目な理由の列挙にて全て非現実となったと聞く。

日星高校と暁星高校による看護学科を中心とした短大の誘致（これだけは舞鶴市の反対にて頓挫したと聞く）と種々計画され、最後に国民宿舎と農業体験実習館の誘致完成と農業改善事業の一環として浜野路の山の青少年キャンプ場、現由良の里センターが浜野路地区の壮年であった（岸田、藤原、田中、小室、中西等々の各氏）の努力で出来た訳である。それにしても国民宿舎等への取付け道路の大規模な折れ曲がりや狭少さは何かを後世に残すことであろう。それに前後して由良地区の簡易水道設備、ガスの集中配管、蜜柑園の集中消毒配管、浜野路以東の圃場整備等も完成し現在も健在である。先人に大いに感謝したく思う。

最後の計画は浜野路の青壮年有志の「浜野路二十一」による由良駅再開発計画であった。府営住宅の誘致、農地付住宅地区の計画、由良駅の由良岳口の開設、舞鶴、綾部、福知山を通学圏とする若人、新婚、青壮年対象の海、川、山を三方に持つ安価な土地付住宅造成販売計画、どれも実現せぬままに現在に至っているが、夢としては持ちたく思っている。

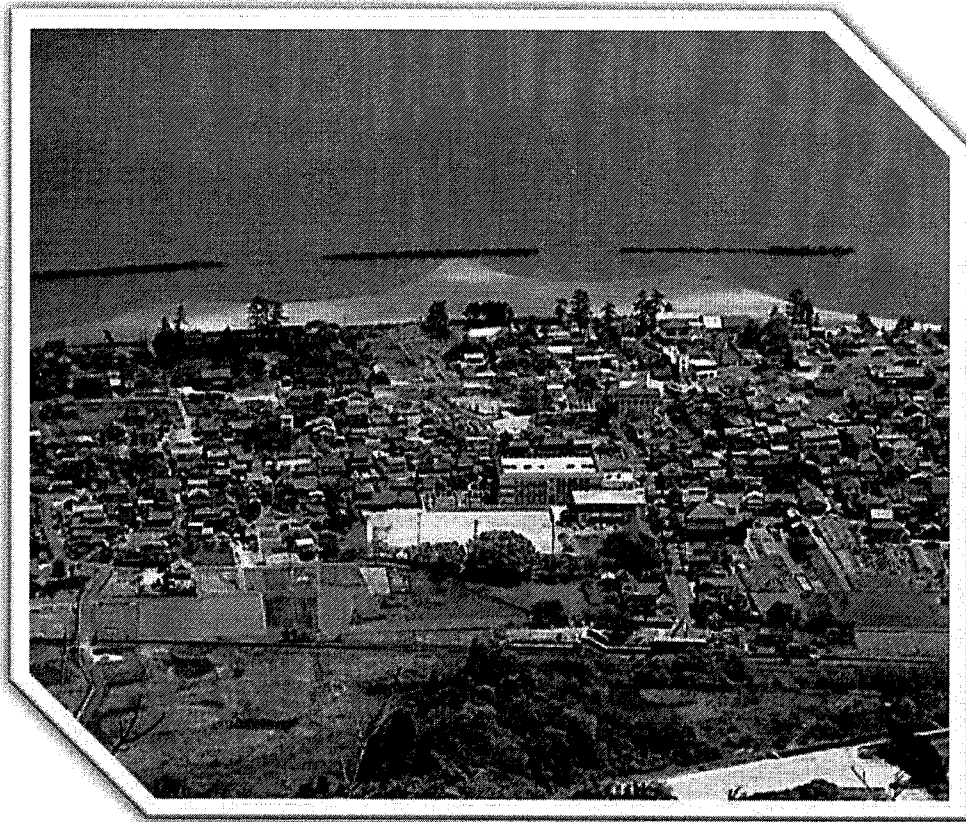
この中でも小学校移転による由良地区の再開発計画が四十年前に出来ておれば、この過疎高齢化の現在の由良がどう変わっていたか興味津々である。しかし、それ以上に舞鶴合併が実現し舞鶴市の海水浴場としての計画が実施され、舞鶴市から白杉回り神崎経由、由良川鉄橋に隣接する由良大橋を持つ舞鶴由良海水浴場と温泉郷となり、由良川を含む海のレジャースポーツ地域の中心となる。こんな事も夢の膨らむ昔話である。

しかし、現状を考えると打つ手がないという者も多いと思うが、地形的に由良川から海への出入り口、由良川を中心とした洗練された観光、文化を持つ居住地区には十分なれる。平面的に横に拡がる由良地区は結構面白い地形とも思える。現在検討中の竹の活用による竹材ペレット工場、その活用による火力発電と温水供給、由良駅裏から由良岳への荒廃地の開発により太陽光発電とオリーブ園と住宅、こぢんまりとした「リサイクル型のモデルエネルギー活用居住地区」の創設は観光資源としても面白い展開が考えられそうである。

余裕は最高の贅沢と考えられる日も来るかもしれないし、新しい価値観が生まれなくても限らないし、宗教と国境と人種に余り左右されない自由な日本はこれからの世界が羨望する国になれる可能性は一杯と思う。

思いついた時が吉日、遅きに

失したと言うことは百年スパンで考えれば決して遅くはないと思いつつ、新しい取り組みに挑戦することを期待する老人である。



# 田邊孝子伝から

由良の歴史をさぐる会 飯澤 登志朗

近年、事件や事故の悲しい報道を見ることが多い。

特に、親が子を、子が親を殺害する。何でそんなことをと憤慨しながらニュースを見ている人は多いと思う。気持ちが悪くトロールできないのか何故こんなことが起きるのだろう。

親孝行は、昔と今では価値観や社会情勢の変化で比較することとは困難かもしれないが、親孝行は、求めたり求められたりするものではないが、本筋では変わらないことではないか。

由良地区には、親孝行について伝えられている話が多いが、如意寺の境内に建つ「重女」の碑や石浦村福松、そして今回伝えたい由良村権右衛門夫婦がベスト3ではと思う。

権右衛門夫婦は、今から

二百七十年余前の話である。

丹後の国由良村という処は、曾根好忠の歌に「由良の戸をわたる舟人楫を絶え」と詠んだのは紀州の事ともいうが丹後由良を詠んだ歌である。

この湊は大浪うちよせ、白砂数町の浜で春の頃より里の男女が一緒に汐を汲み塩屋の煙がたなびく風情のあるところである。

移り見れば由良ヶ岳がそびえ頂に虚空蔵菩薩を安置する。麓には松並木そして沖には白帆が連なり海鳥が飛び交う。大雲川(由良川)が流れて海に至る、その源は山城愛宕山から丹波を経て由良に流れる大河である。

この由良村に孝子が暮らしていた。父は二十四〜五年前に死去、その後は少しの田畑を耕し

母を養っていたのが権右衛門夫婦である。

権右衛門は元來船乗りを業としていた。世に由良湊は千軒長者と呼ばれた繁昌の土地であったが、年移りいつしか舟着も少なくなっていた。権右衛門は船乗りとして諸国を航海し一年に二〜三回しか家に帰ることがなかった。

たまに帰宅しても自宅へ入らず、まず母の所へ行き、安否を問う母がまだ食事が済んでいないければ済むのを見届け、介護を尽くして漸く自宅へ帰っていた。

近年母も高齢となり、寒中は母の寝処を自分の身体で温めた、猶も寒さ厳しい折は夜の更けるのも厭わず粥を焚き母にすすめる。或るときは母の冷えた足を自分の懐に入れて寒気を防いで夜をあかす事が常であった。

権右衛門が仕事で不在となるときは妻が替わって同じように

義母を大切にした。

前年から母の体調が思わしくないことから、船乗りを辞め家にて看病をしようとしたが、母親が大丈夫だから仕事を続けるようにといい、また妻も留守の間は私が介護を尽くすから心配なく船乗りを続けるよう進言した。

また妻は、大きな船では年に三、四度の帰宅になるから小船に乗り換えて度々帰宅し義母の安否を問うように勧めた。権右衛門は尤もと思いい小舟に乗って仕事を続けた。其の他にも数えきれない行状が認められ田邊(舞鶴)藩主から賞を受けることになった。

時の田邊藩主は第四代牧野明成侯であり、母の年齢九十七歳、権右衛門五十七歳、妻四十九歳のことであった。

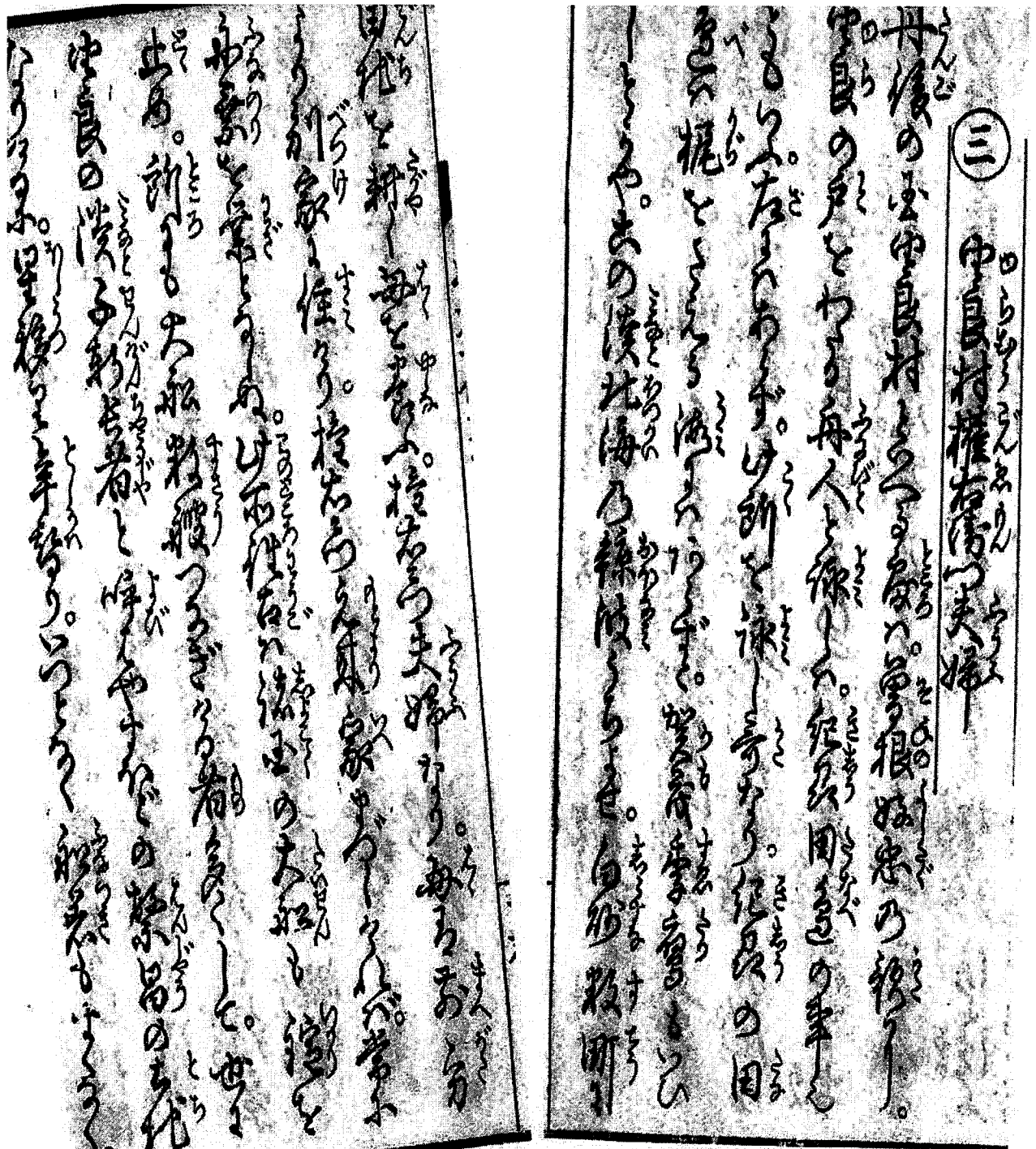
以上は一七四三(寛保三)年の事である。由良小学校に保管されていた教本(修身)から一部省略して記載した。



大相撲初場所での十年振りに日本人力士として優勝した大関琴奨菊がインタビューで両親に感謝という発言があった。親孝行は小さなことでも大きな意味を持つ場合があり、また大きなことでも小さな意味しかない場合もある。

「親孝行したいときには親はなし」という諺があるが、貧富の格差が叫ばれる今日、事業に成功して富豪になるのが親孝行なのか、貧しくても健康で明るい家庭を築くことが良いのか、それぞれの考え方だろうと思う。

二世帯・三世帯同居がニュースになる。以前であれば当たり前前かが現在では珍しい時代となったが、離れていてもたまに電話やメールで幸せを感じる心が豊かな家庭の幸せだと考える。



# 由良が光り輝いていた時代

由良の歴史をさぐる会 加藤 正一

由良が光り輝いていた時代を「資料編」「寺社その他編」に分けて私なりに調査した結果を報告いたします。皆様のご指摘やご教示を頂きより正確度を上げ、我々子孫に誇り高く由良を伝える資料を作ることが私の願いであり目的です。ご協力をお願いいたします。

また、自宅に歴史的な古い資料、記録をお持ちの方で、破棄、処分を検討される場合は「由良の歴史をさぐる会」にご連絡下さい。それが由良の大切な歴史の一ページかもしれませんから。

## 「資料編 No.1」

### 由良が小都会?!

下記は平成二十七年年八月より舞鶴郷土資料館で展示された「丹後の海と川」展による資料錦絵「小学教育大日本所図會」



糸井文庫蔵

絵師 三代 歌川広重  
出版年 明治二十四年

三代広重は（天保十三年（明治二十七年）は鉄道や蒸気船などの文明開化の様子を描いた「開化絵」を数多く発表

錦絵の中に挿入されている文

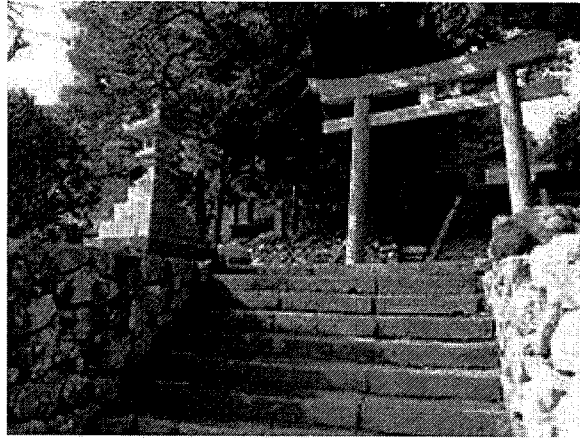
### 「丹後の国

東南は若狭丹波に接し西は但馬に界し 三方皆山岳を負い 只北一面のみ海に瀕す 千丈ヶ岳一名大江山は国の南境に跨る 天橋立は日本三景の一 由良の港 又舞鶴宮津は海浜の一城市 国中の小都会なり」

この事から明治二十四年においても、由良は宮津、舞鶴と並び丹後の小都会と云われるように大いに賑わい活気に満ちた村であったことがうかがえます。

「寺社その他編 No.1」  
上石浦・中路(日吉)神社に  
狛犬現る!

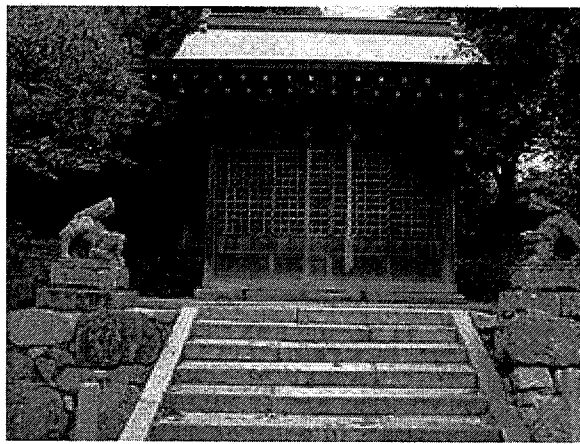
今年平成二十八年は申年で  
す。お賽銭持参で上石浦の中路  
神社(日吉神社)へ参拝を狛犬  
ならぬ狛猿が待っています。



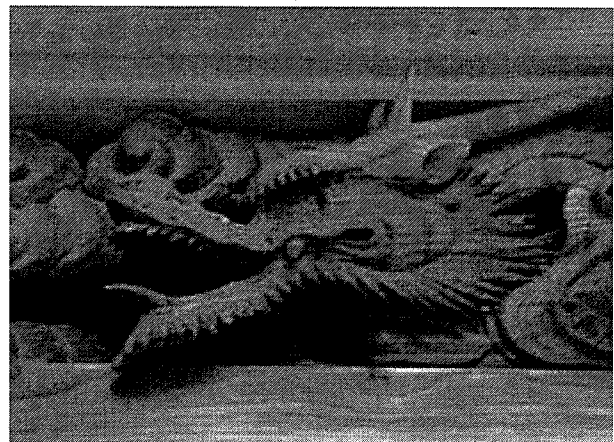
石浦の村中を通り七曲八峠につ  
ながる「由良古道」に面してい  
る神社。石段、参道には部分的  
に福井から廻船で運ばれただろ  
う笏谷石(福井の青石)が敷か  
れている。笏谷石については  
種々見解があり別途述べます。

狛犬と龍

神社には普通向き合った阿吽  
の狛犬が正座で座っているのが  
一般的ですが、覆い屋の前には  
今にも跳びかからんばかりの尻  
上げ姿勢で迎えてくれる。



覆い屋の欄間には向き合った阿  
吽の龍が飾られている。左の龍  
の眼には玉石がはまっているが  
右は無い。下石浦の住吉神社も  
龍の大きさこそ違いますが目玉の状  
態は同じであり落ちたとは思え  
ない。何か意味があるのか?



この龍の裏側に



彫工

田辺西町

池田武工門

正□(緑) 花押

由良歴史年表。安政三年  
(二八五六)創建、宮津市史に、  
元治元年(一八六四)、棟札  
と記載されている。棟札は見つ  
からないが、其々の寄進札  
が覆い屋の壁にある。

### 江戸時代の寄進札

左壁：三段あり上段に安□□□

中段は名簿、下段に安政三年（一八五六）寄進札あり。

奥壁：三段あり上段に文久三年

（一八六三）青而天寄進札、

中段明治三年幟寄進札、

下段元治元年（一八六四）

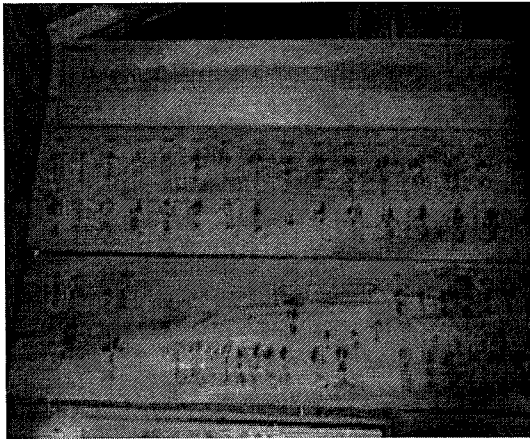
太鼓寄進札あり

右壁：安政□年寄進札、他に二

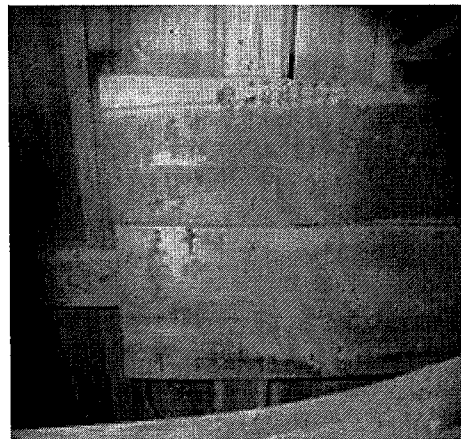
点あるが年代不明

左壁の寄進札

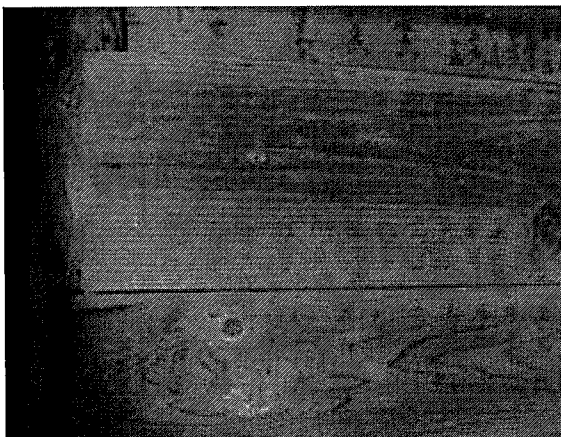
下段に安政三年（一八五六）銘。



奥壁：中段明治三年幟寄進札、  
下段元治元年太鼓寄進札



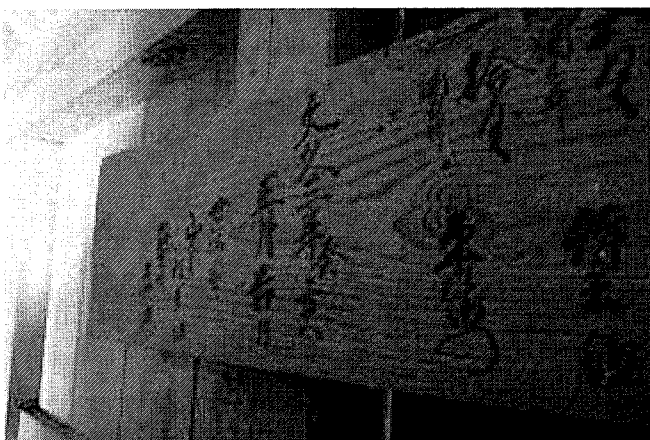
右壁：安政□一五？一年寄進札、  
他に二点あるが年代不明



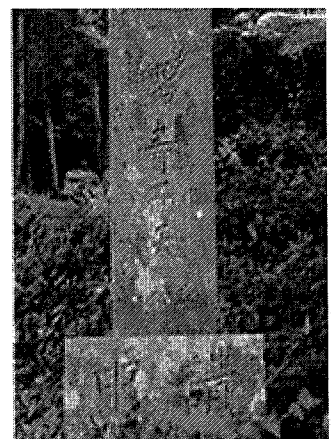
奥壁  
青而天 文久三年 寄進札



文久三年（一八六三）銘



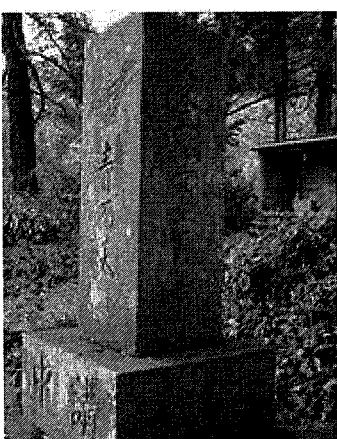
青而天 石塔 台石に講中



正面



文久三年刻印



覆い屋内本殿前に

阿吽の狛犬ならぬ神の使い

「狛猿一对」、

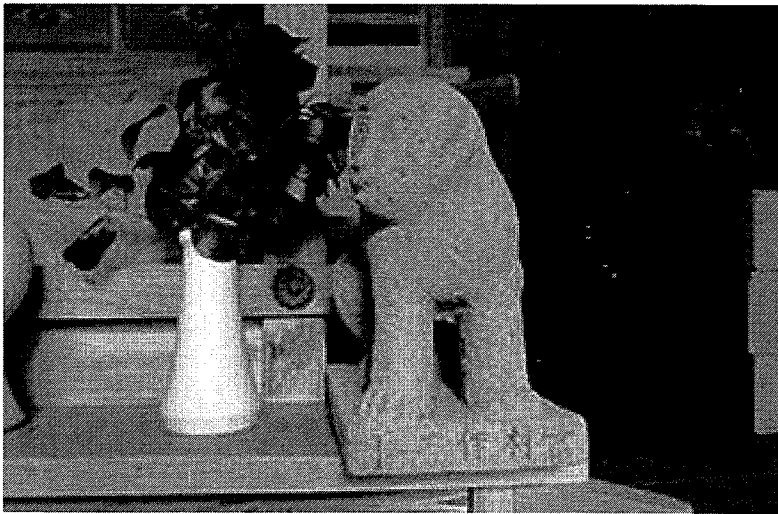
狛猿の台座左側に刻印

天保十五年（一八四四）七月吉日

台座正面に刻印

黨村作□□

右 狛猿

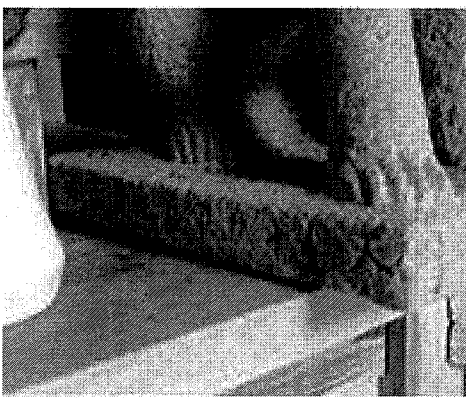


左 狛猿



右 狛猿台座

天保十五年七月吉日



中路（日吉）神社の祭神は？

関係資料によると日吉神社は全国に約三千社はあると言われ、通称として山王権現とも呼ばれる。一般的に日吉神社のご祭神は大山咋神（おおやまくいのかみ）と大物主神（おおものぬしのかみ）と云われ「猿を神の使い」としています。

ご神徳（ご利益）は「外部からのあらゆる厄払い、村内をももる」また「厄除けと開運」「安全と隆昌を授けて下さる」と云われる。

上石浦地区の方から中路神社に祭られている神は出雲の方の神と聞き伝わっているとの事から、出雲の神は大国主神で大物主神とも云われる事から一般的な日吉神社の祭神と一致する。この事からも上石浦の中路（日吉）神社の祭神は大山咋神、大物主神であり御神徳（御利益）は「厄除けと開運」が妥当と考えますが、地元の人々の確認はとれていません。

いつ・なぜ日吉から中路に！

上石浦の日吉神社がいつ頃から中路神社に変わったのだろうか、現在職は日吉神社であり、Google 地図、市販の地図は日吉神社とある。天保十五年（一八四四）の珍しい狛猿が確認され江戸時代は日吉神社として存在していたと考えられる。

「神仏混淆（神仏習合）」の時代は、大山咋神（おおやまくいのかみ）大物主神（おおものぬしのかみ）を祭神とする日吉神社は、比叡山の天台宗延暦寺の鎮守神であったことから明治元年の「神仏分離令」以降に天台宗（仏教）と分離するため日吉神社から中路神社に名前を変えたものと推察します。

今迄明らかにされてきた安政三年（一八五三）より古く天保十五年（一八四四）の珍しい狛猿が確認されるなど自治会長のご厚意により、専門家を含め数度調査をさせて頂き前述のような貴重な江戸時代の歴史遺産を確認できました。是非ご参拝を

# 昭和時代

## 中西 衛

昭和元年（一九二六年）は一週間しかなかった。それで生年月日が昭和元年の人はほとんどいない。特に女性はまったくいない。なぜいないかというと、生まれて一週間たつとすぐに正月になり、二歳になるため昭和二年一月生まれにしたためである。

昭和という命名は『書経』の「百姓昭明、協和万邦」から取ったと言われている。「昭」という字は日本語の中でもあまり使われることのない字だった。当時の人はその言葉を聞いて、すごく変わった字だと思っただらしい。新しく昭和天皇が即位され、「光明の平和なる新時代の建設である」とマスコミは書き、昭和という時代を迎えて「これからは、いい時代

が来るのだ」とマスコミや国民は期待していた。ところが三月十四日に片岡大蔵大臣が議会で失言をした。その翌日十五日に東京渡辺銀行が休業し、あかじ貯蓄銀行も休業、十九日に中井銀行、中沢銀行、八十四銀行、左右田銀行と次々休業し銀行総倒れとなり、そして、当時最大の商社、鈴木商店の破綻、銀行の取り付け騒ぎへとなった。昭和四年の暮れにウォール街から大恐慌が起こってしまった。金解禁をやったものだから経済が余計ひどくなり、昭和二年から六年までの五年間、貧窮のどん底となった。そして東北の凶作がこれに重なって疲弊、困窮した。いたるところで娘の身売りがあった。そして昭和六年に満州事変が起こった。

昭和七年に五・一五事件が起

きた。国民の多くが義挙として受け止め、沸いてしまった。新聞も誉め称え、実行犯を助命してほしいという嘆願書がすごくたくさん政府に届いた。その為軍事裁判の刑は軽かった。

昭和十一年に二・二六事件が起きた。本庄繁侍従武官長は午前五時に娘婿の山口一太郎（陸軍大尉、青年将校の上に立つ男ですが）彼から電話があつて決起したことを知ります。これまでに二・二六事件の通説となっている『本庄日記』では、それを天皇に報告したのは「午前六時」となっている。ところが『昭和天皇実録』では「午前七時十分」となっている。本庄武官長は要ですから、全ての情報が早くから入っているわけです。であるならばすぐに宮城へ行かなきゃいけないのに、二時間十分も情報止めていたため憲兵隊の動きも遅かった。山口大尉と打ち合わせをしていたのだからと言われている。もっと早く動いて

いれば襲われませんでした。殺されないですんだ人もいたかもしれない。本庄武官長は自分からの報告以外に、天皇の耳にみんなに早く入ると思わなかった。なぜすぐに入ったかというと「襲われた鈴木貫太郎の奥さんであるたかさんからの電話によつてです。たかさんは昭和天皇の乳母というか子供の時のご用係ですから宮城の中の事は良く知っている。彼女は天皇に直接早く電話したんです。鈴木貫太郎は銃弾四発が当たって重



傷を負ったが輸血をして助かった。手当が早かったため、また、輸血がこのとき初めて効果を発揮したため助かった。終戦時首相をすることができた。後に「日本のために天が鈴木貫太郎を生かしたのだ」と言われた。知らせてきたのが天皇のお母さんみたいな人で、殺されそうになったのが親父さんと思っていたよいうな侍従長であった。天皇はその時三十三歳で、こんな国難にあわられて、すごく怒りになられて、朕が股肱の重臣たちをこのように殺害した者たちを赦すことは決してできない。(朕の股肱の老臣を殺傷するのは、朕の首を真綿で絞めることきもの)

青年将校の作戦計画は、先ず大蔵大臣の高橋是清さんを殺めるということを目標にしていた。第一師団の歩兵第一連隊、歩兵第二連隊が決起するわけですが、青山通りを通らなきゃいけない。あそこは交通量が多いから知られてしまうとと思った



か、高橋邸に一番近い師団にやらせようとした。そこで今のTBSのところにあった近衛師団の近衛歩兵第三連隊、近衛兵を使つたわけです。近衛兵は宮城の中に入れるたつた一つの部隊なのです。高橋是清を惨殺して、その後半蔵門の中へ入って陛下に決起の趣旨を直接上奏しようとした中橋基明中尉は、行く手を阻んだ陸士の同期、大橋政楽少尉に拳銃を突きつけたが、彼を撃つことはできなかった。両方同時にピストルを抜いたが、中橋の方が先にガクツと膝が折れてしまった。そして自分だけ

宮城から出ていった。

天皇は五時の時点で決起の情報を知って、表御座所へ出、本庄繁が七時十分に報告に来た時に、もうこれは反乱であると天皇は判断していた。私に対して刃を向けているのと同じだという判断をパツと下した。

陸軍省や参謀本部の幹部は、まだ、クーデターのすう勢が決まっていないとき、決起軍に対して、お前たちのやったことは「天聴に達せられあり」と言った。それを天皇陛下は、「わかった」と答えたというふうに青年将校に伝えられた。天皇が怒っているというのは、その言葉からは読めない。逆に決起を御理解いただけたと思った。

それで決起部隊は赤坂や永田町一带を占拠して悠々としていた。陸軍同士が戦つたりしないような形で收拾しようと思つて上の方では、いろんな手練・主管をした。海軍も軍艦を品川沖まで派遣してきた。内戦になら

なかつたけれども、一歩間違うとほんとうにこの国の歴史を大きく変える可能性があったという意味で、非常に重大な事件だった。

陸軍内で皇道派と統制派が争い、統制派が勝つたため、皇道派の有為な人材はみんな追っ飛ばされた。東条英機は、二・二六事件のときは満州にいて、火の粉が全くかからなくて、統制派が天下を取つたところへ戻ってきた。当時どちらかというと出世街道から外れていた彼が早々と戻つて来て、陸軍大臣になつた。昭和十二年に日中戦争が起きた。経済成長率が七年から十一年まで平均七パーセント、十二年は二十三、七パーセントでウォール街発の大恐慌から世界で最初に脱却したのが日本であった。

日露戦争で日本海海戦だけは、大勝したけれど、ギリギリのギリギリで局地戦に勝つただけで、ロシアという国に戦争で

勝ったわけでは本当はなかった。日本はとにかく早く戦争を終わらせる必要があった。そのためのポーツマス講和条約締結をした。

兵隊にしても戦死者が多すぎて若い兵隊がいなくなった。弾丸もない物資もないのです。開国してからたった三十年とか四十年ですから、もう戦争はできないという段階でアメリカに仲に入ってもらって、やっとこ勝ったことにしてポーツマス条約を結んだ。その条約内容がまったく戦勝国の内容ではない。怒った人たちが日比谷で焼き討ち騒ぎを起したりして抗議しました。日本が文句なく勝ったと日本人は皆思っていました。それまで三等国か四等国が一等国に勝ったのだから日本は一等国、我々は一等国民だと思いました。

アジアの国々を靡か<sup>な</sup>せて東亜新秩序をつくって、日本はその盟主になるんだと政府も国民の多くも思っていた。昭和十三、四年ぐらいからガンガン出てきた考え方でした。昭和十五年に近衛さんが出てきて「新体制運動」「大政翼賛会」を作った。そして、日独伊三国同盟締結となつた。昭和十六年十二月八日より昭和二十年八月十五日まで太平洋戦争、昭和二十年より大変化した。男女平等普通選挙初実施、日本国憲法公布、六三三制教育制度発表、東京国際裁判、農地改革、昭和二十五年（一九五〇年）七月二日、金閣寺放火炎上事件、三島由紀夫も水上勉も小説に書いているが、国民がものすごい衝撃を受けた。国が滅びるような戦争がやっと終わって終戦処理も終わって、朝鮮戦争でしょんぼりしていた国が活気づいてきて、なんとなく食えるようになってきて前途が明るくなってきたぞというときに起き

た事件である。やっと国が少し落ち着きかけてきたときに国宝の金閣寺を燃やしちゃった奴が出てきたというのはショックでした。戦時中に日本という国は世界の中でも特異な文化を持つたすごい国で、日本の美というのは桂離宮を「泣きたくなるほど美しい」と評価したブルーノ・タウトみたいに独特の価値を持つているという見方が特に指導者にあつた。しかし、戦後、そんなものは嘘じゃないかという考え方が現れた。林承賢という金閣寺の見習い僧侶で大谷大学の学生であつた。「火をつけたことは悪いと思わない。毎日訪れる参観者の群を見るにつけ、私は美に対し、または、その階級に対して次第に反感を強くしていった。世の中の美は自分にとって醜いと感じたが、反面その美に対する妬みを抑えることができなかった。これは自分たち若い世代の者が悪い環境に置かれているためかもしれない。

昭和三十年代に入ると、今なつかしいと思われる出来事が多く起きた。昭和三十二年にソ連の人工衛星スプートニクが飛び、三十四年皇太子殿下のご成婚、伊勢湾台風、六十年安保闘争、三十九年東京オリンピック、新幹線、東名高速、首都高速、東京タワー、今「三丁目の夕日」という映画を見ると三十年代の風景が多く映っている。都電、東京タワー、ダイハツミゼット三輪車、観音開きドアのトヨペットクラウン、日産ダットサン、日野ルノー、昭和四十年代、五十年代に入るとあまり印象に残るような出来事は少ない。四十七年二月の浅間山荘事件ぐらいのものである。

#### 参考資料

昭和史の十大事件

半藤一利 宮部みゆき

世界には五つの強国しかない。日本はそのうちの一つだ。世界に冠たる民族であるからア



平成27年度 宮津市人権標語入賞作品

おもいやり もってもたれて うれしいな (小学1年生)

「ゆずりあい」「わかりあい」「みとめあい」 (小学2年生)  
あいでつながる 人権のわ

友だちの 心の声に気づきたい (小学3年生)

第三十三回宮津市民卓球大会の結果 (由良関係分)

十二月六日宮津市民体育館で標記大会が行われ、由良地区でA級とC級に各一チーム参加し、立派な成績でした。栗田小学生も参加しています。

「個人戦の結果」敬称略

川崎 清 一般男子A級三位

熊田 良雄 一般男子C級優勝

日比 道栄 一般女子A級優勝

室澤 亜紗 小学生女子準優勝

「団体戦の結果」

由良地区A 自治会A級優勝

栗田小学校 小学生の部三位

由良ヶ岳登山証明書発行数

平成二十三年 七百四十一枚

平成二十四年 七百二十六枚

平成二十五年 六百七十一枚

平成二十六年 八百十枚

平成二十七年 五百二十四枚

平成二十七年は登山証明書を切らしていた時期がありました。

平成二十八年一月一日から二月四日までに発行した枚数は十一

枚です。

一月四日に登られた六十歳代のご夫婦は、登山証明書があることを知っておられませんでした。

数日前に青葉山に登られたそうですが、多くの方が登られていたと聞きました。駐車できるところがほしいことや登山者を受け入れる旅館があればと言っておられました。

今年も多くの方に登山証明書を発行できればと思っております。

四月二十九日は由良ヶ岳登山の日です。はまの子グラウンドに八時三十分集合です。車はグラウンド周辺、由良駅前駐車場、由良地区公民館駐車場をご利用ください。

西峰と東峰の二つの山頂を持ち、どちらも見晴らしは素晴らしいです。多くの方の参加を待っています。

編集後記

2016年(平28年)3月

昨冬とは違って雪も無く暖かな新年を迎えることができました。真っ白な顔で始まった平成二十八年、見慣れた地区内の景色もどこかきりりと引き締まって見えるから不思議である。

今年一年大きな災害もなく過ごせることができたら幸いです。笑う門には福が来るとなりたいものである。エルニーニョ現象で暖冬といわれていましたが日本列島は一月二十四日夜半からこの冬一番の寒気が流れ込んで積雪は約十センチメートル位と少なかつたものの、気温はマイナス六度となり各家庭の水道管の破裂が多くみられた。もうすぐ立春、このころを境に冷え込みは少しずつ和らぎ三寒四温となり寒さの底から春の兆しが見えてくる。早く駅前の桜並木の満開が見たいものである。

(枝川)

